

塩竈市民交流センター「遊ホール」オープン記念
モレキュラー・シアター演劇公演

カフカの域(秘書たち)

"SCHLOSS/SCHRIFT" BASED ON KAFKA'S LETTERS TO MILENA, PERFORMED BY MOLECULAR THEATRE
——フランツ・カフカ「ミレナへの手紙(辻理訳・新潮社刊)」に基づく——

1991年3月3日(日)

(第1回公演) 午後1時~2時30分(開場12時30分)

シンポジウム 午後2時45分~4時15分

(第2回公演) 午後4時30分~6時

入場料 ● 一般(前売 2,000円、当日 2,500円)

● 高校生以下(前売 1,500円、当日 2,000円)

※シンポジウム 500円(当日のみ)

前売券取扱 仙台:八重洲書房、宮城県美術館ブックショップ、あべひげ、
141ビル(B2F)プレイガイド

塩竈:公民館、ファーストトレイン、ラ・ムスタッシュ

塩竈市民交流センター

遊ホール JR仙石線本塩釜駅下車
徒歩3分

☎ 022-365-5000



主催
後援
協力
問合わせ

「文化/現場の集い」モレキュラー・シアター公演実行委員会

塩竈市、塩竈市教育委員会、塩釜ユネスコ協会、塩釜芸術文化協会、塩釜商工会議所、塩釜商工会議所青年部

あべひげ ☎ 264-1531 / 企画ふあず ☎ 263-1588 / ビンセンス ☎ 261-5364 / ラ・ムスタッシュ ☎ 365-2910

今野印刷 ☎ 022-362-3271 / 塩竈市教委社会教育課 ☎ 022-362-2556

シンポジウム：講演とパネルトーク

「現代演劇の最前線—都市と劇場—」

時 間 PM 2:45~4:15 (1時間30分)
 基調講演 太田省吾 (劇作家、演出家、藤沢市民シアター芸術監督)
 パネラー 豊島重之 (モレキュラー・シアター主宰)
 下館和巳 (イギリス演劇、東北学院大学助教授)
 (さき手) 佐々木はる (コピーライター、ピンセンス主宰)
 入場料 500円 (当日精算)



太田 省吾

豊島 重之



下館 和巳

佐々木 はる

スタッフおよびキリスト

作・演出：豊島重之
 主演：大久保一恵
 出演：服部明子、平井美智代、佐々木夏子、清川理恵、
 高沢利栄、藤田良子、相馬寿、荒谷勝彦、向麻利
 舞台監督：荒谷勝彦
 照明：巖主正規
 音響：根本忍、米内晃
 舞台操作：戸田昌征、田中勉、山崎淳

モレキュラー・シアター活動歴

- 1986 「f/f パラサイト」(カフカ「フェリーツェへの手紙」による) 初演/於 東京。
- 1987 「f/f パラサイト」西独・ベルギー公演、京都、名古屋、高松公演。
- 1988 「ベルリン750年祭ベタニエン・フェスティバル」招待公演
- 1989 「国際カフカ・フェスティバル」共同主催/「f/f パラサイト」「B・トーキー (カフカ「穴巢」より)」上演於 八戸、「f/f パラサイト」チェコ・イタリア・西独公演/(カフカ演劇祭、パレルモ演劇祭)。
- 1990 「シュロス/シュリフト」公演/於 埼玉県立近代美術館、「ヨーロッパ・カルチャー・クラブ設立総会」(ブラハ)「ロクス・パラソルス」公演/於 八戸。

評

宇野邦一 (仏文学者)

——豊島重之の演出は、このようなカフカのシステムの動脈を抽出した。カフカの手紙がドラマになったのではなく、手紙というカフカの舞台の、カフカの演出、カフカの俳優たちの対決が、直接抽出されたのである。

ミハエル・ヘルター (ベルリン・ベタニエン館長)
 ——モレキュラー・シアターは、シンボル力の強烈な描写と場の設定を、観る者を釘づけにするサイコドラマに濃縮し、日本語を解し得ぬ者をもその魅力の虜としてしまった。

太田省吾 (劇作家・演出家)

——大久保一恵さんの演技、その深みのある動きはこの舞台には欠かせないものだと思います。われわれは、彼女の深い目にさそわれて、鼠根裏部屋へ足を踏み入っていたのでした。

オンドリエイ・フラーブ (ブラハ・演劇批評)

——日本からのモレキュラー・シアターはカフカ理解のためのもうひとつのドアを開けてくれた。その芸術的完成度はもとより、多くの問題を喚起してくれたこの演劇は、我々の心の中にあるもうひとつの境界を見事に打ち破ってくれたと言ってよい。

かきせつ

本公演は、青森県八戸市で独自の活動を展開する一方、ヨーロッパ各地で多くの公演活動を行っているモレキュラー・シアターの、初の宮城公演です。カフカの「フェリーツェへの手紙」に魅入られ、結成当初より困難な演劇化を試み、その解釈の特異さは、一昨年ブラハで行われたカフカ国際演劇祭でも大きなセンセーションを巻き起こしたほどです。

本作品「カフカの城(秘密たち)」は、カフカがフェリーツェの次に送り続けた「ミレナへの手紙」に基づく、同劇団の最新作。

場面は、カフカの長編小説「城」のストーリーによって展開しながら、セリフはあくまでカフカが死の直前まで送り続けた、恋人ミレナへの手紙のモノローグで語られてゆく。それは、象徴化された小説の形式のなかに、私信で綴られる生々しい感情を鋭く突きつけることで、死の影迫るカフカの全体像をいっそう深く掘り下げようとするかのようです。

事実、ミレナへの手紙は、ちょうど「城」を執筆していた時期に最も盛んに書かれており、その数は2年たらずの間に300通にもものぼったと言われます。その意味で、1910年代のカフカがフェリーツェへの手紙を基礎に「変身」「判決」「審判」などを生み出したとすれば、1920年代のカフカは、ミレナへの手紙を基礎にこの長編小説「城」を発酵させたと言っても過言ではなさそうです。

仙石線(下)	
仙台発	本塩登
12:04	12:31
12:19	12:43
13:49	14:13
14:04	14:31
15:46(快)	16:01
15:49	16:13

仙石線(上)	
本塩登発	仙台着
15:06	15:32
16:39	17:03
16:52(快)	17:07
18:28	18:50
18:41	19:07
19:08	19:34

東北新幹線(上)	
上野発	仙台着
9:46	11:37
12:00	14:03

東北新幹線(下)	
仙台発	上野着
20:22	22:24
21:22	23:24

